

## ワークショップのご案内

日本箱庭療法学会第30回大会を帝塚山学院大学泉ヶ丘キャンパス（大阪府堺市）にて開催いたします。今大会は、12名の先生方にワークショップ講師をお引き受けいただくことができました。

ワークショップの形式は、講師に一任しています。コースによって、テーマに即した参加者からの事例提供を募集しています。詳細は各コース（A～L）の案内をご覧ください。

みなさまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

### 1. ワークショップ概要

日 時：2016年10月15日（土）9:30～12:00（受付開始 9:00）

会 場：帝塚山学院大学泉ヶ丘キャンパス 本館・新館（〒590-0113 大阪府堺市南区晴美台 4-2-2）

講 師：（50音順・敬称略）

A	石原 宏	(佛教大学)
B	岩宮 恵子	(島根大学)
C	氏原 寛	(前 帝塚山学院大学大学院)
D	岡田 康伸	(京都大学名誉教授)
E	河合 俊雄	(京都大学こころの未来研究センター)
F	川嶌 克哲	(学習院大学)
G	川戸 圓	(川戸分析プラクシス)
H	桑原 知子	(京都大学大学院教育学研究科)
I	高石 恭子	(甲南大学)
J	田熊 友紀子	(代官山心理・分析オフィス)
K	田中 康裕	(京都大学大学院教育学研究科)
L	山中 康裕	(京都ヘルメス研究所、京都大学名誉教授)

#### 受講費：

	予約参加	当日参加
会員	6,000円	7,000円
非会員	8,000円	9,000円

\* 当日参加は、定員に余裕のある場合に限り可能です。

\* 非会員で参加を希望される方は、大会準備委員会ワークショップ係まで資料をご請求ください。  
折り返し、案内、申込ハガキをお送りします。

**受講資格：**一般社団法人日本箱庭療法学会正会員。もしくは臨床心理士の有資格者、臨床心理学を学んでいる大学院生、臨床心理学およびその関連領域で実践的な仕事に従事されている方で、心理臨床事例に関する守秘義務を遵守できる方。

## 2. ワークショップ・コースのご案内

### A 箱庭療法の基礎的研究について考える

講師：石原 宏（佛教大学）

内容： 箱庭療法は、臨床実践と事例研究を中心に発展してきました。今後もそのことに変わりはないと考えますが、その一方で、箱庭の何がどのように治療的に働くのか、基礎的研究の積み重ねによって説明しようとする努力を続けていくこともまた、箱庭療法に携わる者の一つの責務と言えます。箱庭療法の臨床実践と基礎的研究の乖離については、箱庭療法の導入初期から課題として指摘されてきましたが、この乖離にどのように取り組んでいくのかが今日でも大きな課題となっています。

今回のワークショップでは、『箱庭療法学研究』に掲載された論文を中心にこれまでの基礎的研究を振り返りながら、臨床実践に資する箱庭療法の基礎的研究とはどのようなものなのか、参加者のみなさんと一緒に考えることができればと思っています。箱庭療法の基礎的研究に関心をお持ちの方、修士論文・博士論文を箱庭療法の基礎的研究で書こうと計画されている方などの積極的なご参加をお待ちしております。

事例募集：なし。

### B 「定点」と「枠」としての箱庭 —イメージ表現の多様性について考える—

講師：岩宮 恵子（島根大学）

内容： 箱庭が置かれると、それをすべてクライエントの内的なイメージ表現として読み取り、これがどう治療的に働いているのか、一生懸命、考えるのが治療者としての基本的な姿勢だろう。しかし箱庭に、何らかのイメージが表現されているのは確かだと思われるものの、ほんとうに治療的に働いているのだろうかとふと疑問がよぎることもある。もちろん、それにはクライエントの箱庭に対するコミットの深度も大きく影響しているだろうが、それだけではない場合もあるように思う。

箱庭は、イメージを展開していくための大変な方法としてだけでなく、ある種、定型の表現によって安心感を得るための治療の「定点」というか、「枠」としても機能することがあるのではないだろうか。

このワークショップでは、毎回、箱庭が置かれるものの、その箱庭表現自体には展開や広がりがなかなか見られないなかで、治療の「定点」と「枠」として箱庭が機能し、箱庭以外でのイメージ表現が賦活されていく可能性を、病院でのケースから考えてみたい。

事例募集：なし。事例提供者：末延直樹氏

### C ロールシャッハテストの実際 —構造とイメージ—

講師：氏原 寛（前 帝塚山学院大学大学院）

内容： 体験型は H. ロールシャッハがこのテストで最も肝要のものとした指標である。しかし昨今のエビデンスベーストの風潮にあって、その重要度が次第に失われつつある。この指標は、F に示される客観的認知的能動的な相を踏まえながら、M や C に表われる主観的体験的受動的なありようとのバランスを見ようとするものである。こういう姿勢が、現代のロールシャッハ・プロトコル解釈においてどのように具体化されるのかのプロセスを実際に示そうとするのが、今回の目標である。そこで参加者に反応数 20 前後のプロトコルをお寄せいただきたい。その解釈を提示することによって、いわゆる構造的解釈の手順を示したい。複数の応募のあった場合、そのどれをとり上げるのかは当方にお任せいただきたい。なおプロトコルには一応スコアリングをつけて頂きたい。どのシステムによるかは問わない。ちなみに当方の基本的な立場はクロッパーによっており、それにシャハテルと辯悟のおかげを多分にこらむっている。

事例募集：受講者の中から事例提供者を募集します。

## D 事例をもとに箱庭療法の基本を学ぶ

---

講師：岡田 康伸（京都大学名誉教授）

内容：筆者はここ数年、箱庭療法の基礎にたち返り、その基本を学ぶことを目的にワークショップを実施してきた。今回もおなじ主旨で、ワークショップをおこないたいと思う。なお、学会が創立されて30年が経ったが、それなりの発展とともに基礎に立ち返ることも大切であろう。

箱庭の特徴はその用具にある。すなわち、砂と砂箱と玩具の3セットである。砂は母性性との関係で、砂箱は無意識が投影され、作品が制作されるために必要な守りとして、玩具は制作者の思いを受けとめるもととしてなど働いていると思われる。これらが箱庭の治癒力を高めているのであろう。

箱庭が心理的な問題解決に役立っていく過程を明らかにしていきたい。

事例提供者：受講者の中から事例提供者を募集します。

## E 箱庭療法における垂直性と縦軸

---

講師：河合 俊雄（京都大学こころの未来研究センター）

内容：発達障害の子どもの遊戯療法における二次元からの高さの出現、10歳くらいの風景構成法における「川が立つ」垂直性の次元の成立、摂食障害（特に拒食症）における高い建物の夢の中の上下動などのように、発達や治療での転換期における「垂直軸」の成立や存在は大きな意味を持つ。しかし描画や箱庭においては、垂直性は平面に投影されて、平面上の「縦軸」になることが多い。

発達、身体や超越との関わり、心理療法における垂直性を見直すとともに、提供事例に沿って、箱庭における垂直性と縦軸の関係を検討し、深めたい。

事例募集：なし。事例提供者：堀内真希子氏

## F 風景構成法における、メタ境界としての「枠」と「連山」

---

講師：川寄 克哲（学習院大学）

内容：風景構成法（のみならず、箱庭でも夢でもそうなのだが）において「境界」は重要な治療的指標となる。その中で重視される境界のひとつが「川」である。川という境界が描かれることによってその両岸がA領域／B領域という具合に分節化される。このA／Bは自我親和的なもの／自我違和的なもの、意識／無意識、既知／未知、顕在化しているもの／潜在しているもの、などと関係づけられるものであり、それゆえ重視されうる。しかし、そもそもこのA／Bという区分、それを分ける境界としての川が成立するのは、空と大地を区分する「連山（あるいは地平線）」という境界であり、これはいわば、川に対してメタレベルでの境界といえる。また、もちろん、風景構成法における画用紙の「枠」はすべてのアイテムをその中に構成させしめるメタ境界である。この意味での、「連山」や「枠」の不成立、歪みはそれ相当の病理（やそれゆえの治療的展開可能性）を示している。

本ワークショップでは、上記のような観点から「連山」や「枠」を具体例にそって検討してみたい。

事例提供者：受講者の中から事例提供者を募集します。

## G 箱庭と夢の関係性について考える

---

講師：川戸 圓（川戸分析プラクシス）

内容：このワークショップでは箱庭療法と夢分析の関係性について考えてみることとします。ユング派の心理療法においては、自我あるいは意識のみに焦点をあてることは、全くというわけではありませんが、あまりないことです。クライエントの現実的な語りに耳を傾けながらも、その背後にあるものに、分析家は心を向けることを心がけています。こうしたシチュエーションの中で、ふと生まれて来る物語を大切にします。ただ、当然のことながら、物語は、常に、また期待通りに、生まれてくるものではありませんので、身体をつかい、砂に触れて物語を紡ぐ機序としたり、あるいは夢という形で生まれて来る物語に目を向けながら、クライエントに特有な物語の生成を待ち受ける

ことになります。クライエント自身の物語という観点から、箱庭の物語、夢の物語がどのように関係しているのかを、このワークショップでは見ていくことにします。そしてクライエント自身の物語であったものが、歴史・空間を越えた、より大きな物語でもあることを見ていけたらと思います。

受講者の皆さまから、時に箱庭が置かれ、時に夢が報告されながら心理療法が展開して行った事例を、提供していただけたらと思います。

**事例提供者**：受講者の中から事例提供者を募集します。

## H 箱庭療法における「箱庭」と「自分」との関係について

**講師**：桑原 知子（京都大学大学院教育学研究科）

**内容**： 箱庭療法において作成される「箱庭」は、作り手である「自分」と、深い関係をもつ。「自分」がどこまで表現されるのか、それは「ぴったり」しているのか、「ズレ」があるのかなど、その「関係」はさまざまなかたちをとるだろう。こうした「関係」が、箱庭療法において重要な意味をもつていることに疑問の余地がない。

本ワークショップにおいては、箱庭療法における、この「箱庭」と「自分」との関係に注目しながら、箱庭療法において、どんなことがおこっているのかを考えてみたい。

また、今回は主として事例に基づいてワークショップを行うため、事例を募集する。

\*一回だけの箱庭作品でもかまいませんし、どんな場における箱庭でもかまいません。

**事例提供者**：受講者の中から事例提供者を募集します。

## I 青年期と表現療法 —イメージをどう「ことば」にするか—

**講師**：高石 恵子（甲南大学）

**内容**： 青年期以降の心理療法においては、一般に言語面接が主となります。とりわけ近年の傾向として、具体的な治療目標を立て、課題解決型の短期的な技法が用いられることが増えていると言えるでしょう。一方で、まだことばにならない未分化な感情や欲求をじっくり抱えながら、身体感覚やイメージを手掛かりにして、少しずつ内面に向き合い、成長する過程を支えるような表現療法の技法が有効な例も、以前より増しているように感じます。

本ワークショップでは、表現療法の中でも特に描画技法を取り上げ、描かれた作品からどのようなことが読み取れるか、「ことば」についていく作業を丁寧に行ってみたいと思います。クライエントに伝わる（伝える）ことば、他職種の共同治療（支援）者に伝わることば、見立てとしてのことば、など目的によって言語化のあり方は異なるでしょう。事例の提供者を募集しますので、積極的にお申し出ください。1枚だけの描画、長期事例の中のシリーズの描画など、いずれでも結構です。

**事例提供者**：受講者の中から事例提供者を募集します。

## J 箱庭・プレイに出現する「水」 —リアルとイメージ—

**講師**：田熊 友紀子（代官山心理・分析オフィス）

**内容**： 箱庭療法やプレイセラピーの中で、さまざまな姿で「水」が登場することがある。クライエントが実際の水を使用して絵の具などで水遊びをすることもあり、そこでは本物の水との直接的な関わり（感触、流動性）が生じる。一方で、箱庭の底の青を水として、あるいは砂の動きを水の動きと見立てたり、遊びの中で「ここに水があるとして…」というイメージをクライエントとセラピストと共有することで成り立つ水遊びもありえるだろう。プレイセラピーの中で水の使用を認めるかどうか、プラクティカルな問題も生じる場合があり、セラピストはセラピーの場に出現した水の治療的／破壊的機能についてよく理解している必要がある。

このワークショップでは、箱庭やプレイに出現する水の諸相を取り上げ、クライエントと水の関

わりの意味、またそれをめぐって治療者や治療空間がどのような関わりが求められるかについて、具体的な事例を通じて考えてみたい。

**事例募集**：なし。 **事例提供者**：吉成千絵氏

## K 箱庭療法と日本の主体

**講師**：田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

**内容**：文化地理学者のオギュスタン・ベルクは、日本の風景の特徴として、①主体の中心性の弱さ、②現在主義、③並置、を挙げているが、これらは、①当事者感なく、執行機能を放棄する、②過去・現在・未来という時間の流れではなく、その場その場を刹那的に生きる、③現実生活で物事にプライオリティーを付与せず、様々な課題・出来事を並列的に放置する、という意味で、発達障害的心性のそれと重なると言えるだろう。このように、日本的心性の古層には、発達障害的心性と重なる部分があり、箱庭療法が、1965年に導入されて以降、日本でこれほど普及した背景には、箱庭がそのような日本の主体の在り方にこの上なくフィットするものだったことがあるように思われる。このワークショップでは、提示された箱庭療法の事例を通して、西洋的主体とは異なる日本の主体の特徴と可能性について論じたい。

**事例提供者**：受講者の中から事例提供者を募集します。

## L 私と箱庭療法の五十年

**講師**：山中 康裕（京都ヘルメス研究所、京都大学名誉教授）

**内容**：大会本部の方から、学会が第30回という記念すべき大会なので「箱庭との30年」というタイトルでワークショップを依頼された。しかし私は、箱庭との関わりは今年で丁度50年、何と半世紀になる！30年というのは学会を形成しての年限で、50年というのは私が Sandspiel に接して50年となるからである。私の医局に箱庭をもち込んだのは大原貢先生（元愛知医大教授）で、彼が河合隼雄先生の持ち帰られたこの方法を京大の集談会で聴き、早速大学病院に於て始められたからであつたし、何と Kalf D.M. が Sandspiel: Seine therapeutische Wirkung auf die Psyche を書いたのが1966年で、私はその年に購入して読みはじめ、1972年に邦訳版を先の大原さんらと訳したのだった。今回は、そこから始めてこの50年間の箱庭との関わりについて、縷々語ることにしたい。

**事例募集**：なし。講師自身が事例を提供します。

**使用する資料**：『カルフ箱庭療法』（カルフ著 山中康裕監訳、誠信書房）、『世界の箱庭療法』（山中康裕ほか編、新曜社）ほか

## 3. ワークショップの受講申し込み

ワークショップの参加予約は、別紙「一号通信」を参考に、以下の要領で申し込んでください。

1. ワークショップ受講の事前申し込みには、Web登録をご利用ください。同封のハガキでのお申し込みも可能ですが、Web登録での予約申し込みを優先し、各ワークショップとも定員で締め切らせていただきます。
2. Web登録にてお申し込みされる場合、別紙「Web登録の手引き」にしたがって、必要事項をご入力ください。締め切りは2016年6月30日です。お支払い方法は、クレジットカード決済と口座振り込みから選択いただけます。受講コースの決定は、参加費のご入金確認後、7月下旬よりメール（受講コース決定通知）にて順次お知らせします。
3. 同封の往復ハガキを利用してお申し込みをされる場合、必要事項を記入のうえ、往信面・返信面とも切手を貼付し、2016年6月30日(必着)までに大会準備委員会へ送付して下さい。また、期日(6月30日)までに所定の参加費を以下の口座に払い込んでください。振込みの際には、必ず参加者ご本人の名義でお手続きください。ご入金確認後、7月下旬に受講コース決定通知を送付します。

**みずほ銀行 十五号支店（ジュウゴゴウシテン）  
普通口座：3107337 口座名：(株) 日本旅行（カブ ニホンリョコウ）**

4. 名札はプログラムとともに9月上旬に送付します。当日は必ずご持参のうえ、受付にてご提示ください。
5. ワークショップの受講コースの決定は、受講希望コースに従い、①ワークショップ事例提供者、②Web登録での会員先着順、③往復ハガキでの会員先着順、④非会員先着順の順位にて決定いたします。第1希望から第3希望まで希望するコースを明記して申し込んでください。なお、コース決定はあくまでも第1希望優先です。第2、3希望を書いたために第1希望で不利になることはありません。
6. 払い込まれた諸費用は、事情の有無にかかわらず返金しませんので、ご了承ください。
7. ワークショップは12:00で終了します。ワークショップ後に弁当（1,000円）が必要な方は、予約してください。

#### **4. ワークショップ事例発表の申し込み**

1. 希望するワークショップ・コースが事例を募集している場合にのみ申し込みができます。なお、事例発表は原則として会員に限ります。
2. Web登録で申し込まれるか、同封の往復ハガキの「8. ワークショップ事例発表“申し込む”」に○をつけ、大会準備委員会へ送付してください。折り返し、準備委員会よりご連絡いたします。
3. ワークショップでの事例発表を希望する方は、2016年4月25日までに必ずワークショップの受講申し込みを済ませてください（往復ハガキでの申し込みの場合、当日必着）。
4. 事例発表の申し込みが多数あった場合は、講師と相談のうえ選択いたしますので、ご了承ください。

#### **5. 研修証明について**

初日のワークショップおよびシンポジウムの両方に参加した方には、臨床心理士教育・研修委員会規程別項第2条（3）の「ワークショップ型研修会」受講の2ポイントが、ワークショップでの事例発表者には4ポイントが与えられます。本大会では、臨床心理士のワークショップおよび大会参加者リストを資格認定協会に大会準備委員会より送付します。それにより臨床心理士ポイントは自動加算されます。お申し込み時に必ず臨床心理士番号をご記入ください。別途研修証明書は発行いたしません。

#### **箱庭療法学会第30回大会ワークショップに関する問い合わせ・連絡先**

E-Mail : hakoniwa30th@gmail.com

FAX : 072-292-2135

郵便 : 〒590-0113 大阪府堺市南区晴美台 4-2-2

帝塚山学院大学人間科学部心理学科内

日本箱庭療法学会第30回大会準備委員会 ワークショップ係

\*お問い合わせやご連絡はなるべくEメールにてお願いします。

\*お電話でのお問い合わせには応じられませんので、ご了承ください。